

# 令和5年度「全国学力・学習状況調査」の結果 －分析から見てきた成果・課題と今後の取組について－

区 名	阿倍野区
学 校 名	大阪市立常盤小学校
学校長名	村上 昌志

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和5年4月18日（火）に、6年生を対象として、「教科（国語・算数）に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

大阪市教育局では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育局の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

## 1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

## 2 調査内容

### (1) 教科に関する調査

- ・国語
- ・算数

### (2) 質問紙調査

- ・児童に対する調査
- ・学校に対する調査

## 3 調査の対象

- ・国・公・私立学校の小学校第6学年の原則として全児童
- ・常盤小学校では、第6学年 192名

## 令和5年度「全国学力・学習状況調査」結果の概要

- 国語・算数の平均正答率は、以下の通りである。（ ）は全国・大阪市平均との差。  
国語：75ポイント（全国平均＋7.8ポイント、大阪市平均＋8ポイント）  
算数：73ポイント（ ” ＋10.5ポイント、 ” ＋11ポイント）
- 国語・算数とも平均正答率は全国および大阪市平均より10ポイント程上回る良好な値であった。平均無回答率は、国語で1.6ポイント、算数で1.2ポイントで、全国・大阪市に比べて良好な値であった。
- 正答率別児童分布を見ると、国語・算数とも正答率8割以上の児童は全国を上回る分布状況である。一方、正答率2割未満の児童も少なくない状況である。

## 分析から見えてきた成果・課題

教科に関する調査より

〔国語〕領域別の正答率をみると、「読むこと」「話すこと・聞くこと」「書くこと」について全国平均・大阪市平均を上回っている。しかし、「書くこと」については他領域と比べると全国平均・大阪市平均との差が小さいので、「書くこと」の学びについてはまだまだ改善できる余地があると考えます。

〔算数〕領域別の正答率をみると、すべての領域において全国平均・大阪市平均を上回っている。「図形」領域については、正答率が60%を下回っており、空間的な認知力を高める指導について検討を進めていく。

質問紙調査より

「自分にはよいところがあると思いますか」の質問に対して、肯定的な回答をしている児童の割合は83.5ポイントで、前回調査を下回り、全国平均とほぼ同じ結果となった。（H31：80.1ポイント、R3：82.2ポイント、R4：85.7ポイント）これらのことを踏まえ、授業の中で互いを認める場を設けたり、子どもたち一人ひとりが活躍できる場を設定したりするなど、それぞれの学年、それぞれのクラスで子どもたちの自己有用感を高められる取り組みを工夫して行うことが必要と考える。また、否定的回答の児童については、その子たちが自分の良さに気づくことができるような取り組み、働きかけを今後も考えながら取り組んでいきたい。自己有用感の育成は、本校の課題として継続的に取り組んでいく。

## 今後の取組(アクションプラン)

- 主体的・対話的で深い学びの推進  
児童自らが課題を見出し、自ら進んで解決策を考えたり、友だちと学び合う中で最適解を合意形成していく学習を通じて、知識を活用して課題に対応したり生活に生かしたりする学びを展開していく。そのために、各教科や課題に応じた授業展開ができるように授業の充実を図る。また、タブレット端末を効果的に活用することで、個に応じた学びに向けて取り組みを進める。
- 読書習慣の育成  
学校図書館の全日開館、読み聞かせ活動、読書週間の取り組み等を通じて、読書に親しむ姿勢を育てる。
- 学習内容を定着させるための取り組み  
特に国語と算数について、習熟に差がある児童への支援や、授業で使用するドリルやプリント、宿題の量や出し方について等、学習内容を定着させるための方策を校内で意見交流したり研修したりすることで、今後の学習指導に活かしていく。

# 【 全体の概要 】

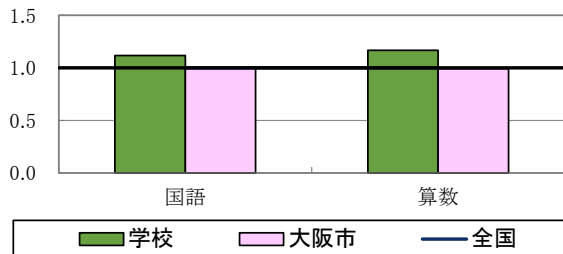
## 平均正答率（％）

	国語	算数
学校	75	73
大阪市	67	62
全国	67.2	62.5

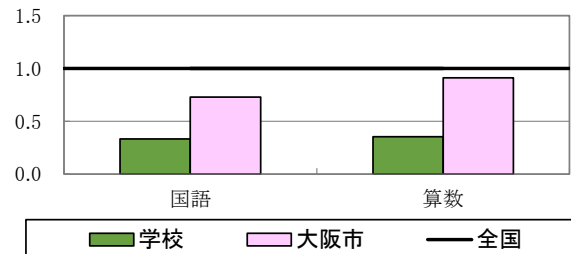
## 平均無解答率（％）

	国語	算数
学校	1.6	1.2
大阪市	3.5	3.1
全国	4.8	3.4

平均正答率(対全国比)



平均無解答率(対全国比)



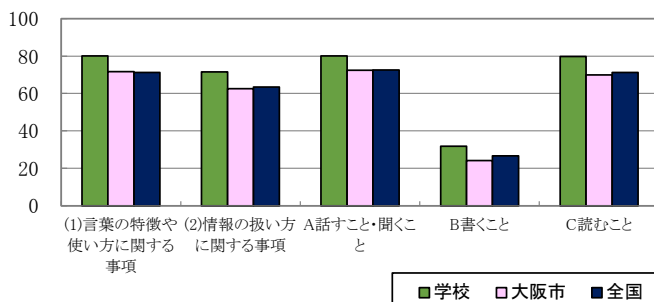
## 【 国 語 】

学習指導要領 の内容	対象 設問数 (問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
(1)言葉の特徴や使い 方に関する事項	5	80.1	71.7	71.2
(2)情報の扱い方に 関する事項	2	71.5	62.6	63.4
(3)我が国の言語文 化に関する事項	0			
A 話すこと・聞くこと	3	80.1	72.4	72.6
B 書くこと	1	31.9	24.2	26.7
C 読むこと	3	79.8	69.9	71.2

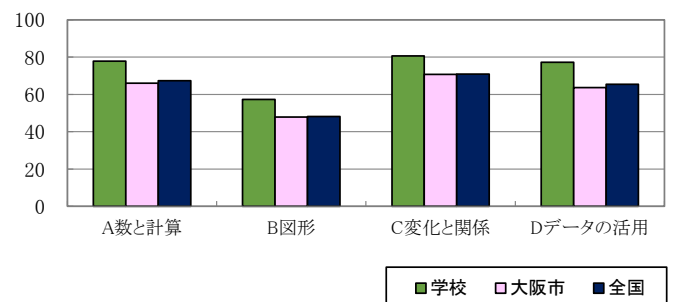
## 【 算 数 】

学習指導要領 の領域	対象 設問数 (問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
A 数と計算	6	77.8	66.1	67.3
B 図形	4	57.3	47.8	48.2
C 測定	0			
C 変化と関係	4	80.7	70.8	70.9
D データの活用	3	77.3	63.6	65.5

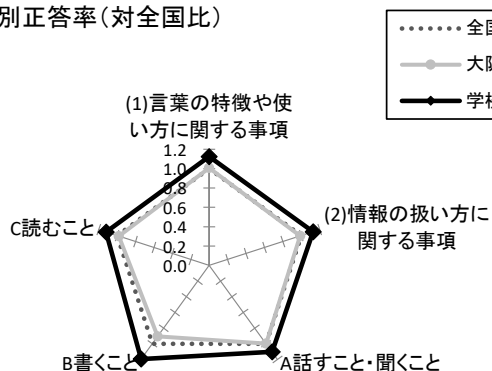
国語 領域別正答率(学校、大阪市、全国)



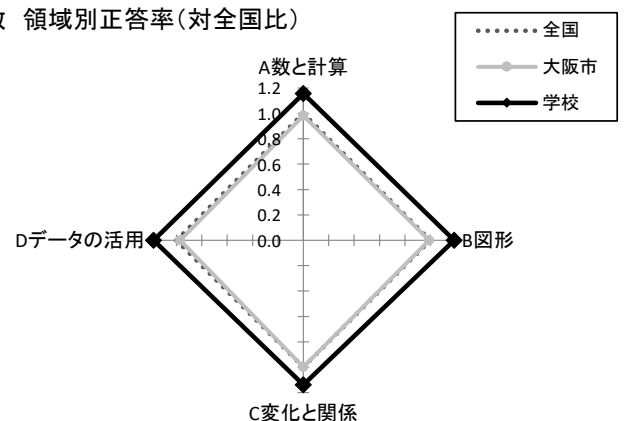
算数 領域別正答率(学校、大阪市、全国)



国語 領域別正答率(対全国比)



算数 領域別正答率(対全国比)



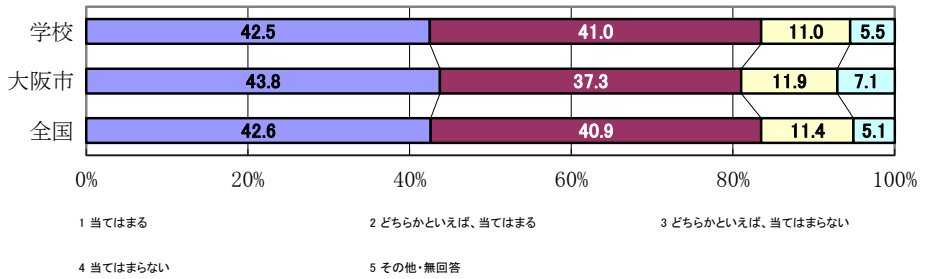
児童質問紙より

質問番号  
質問事項

4

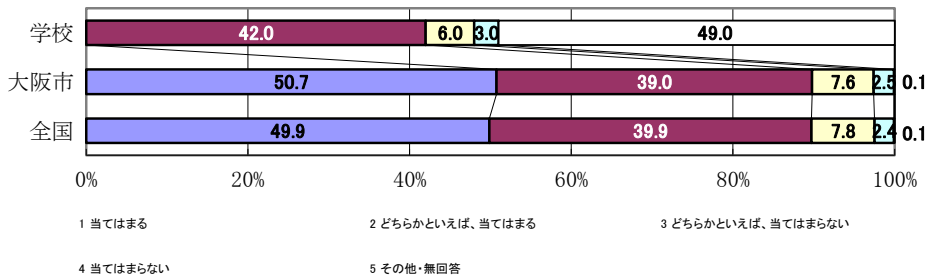
自分には、よいところがあると思う

1 2 3 4 5 6 7 8



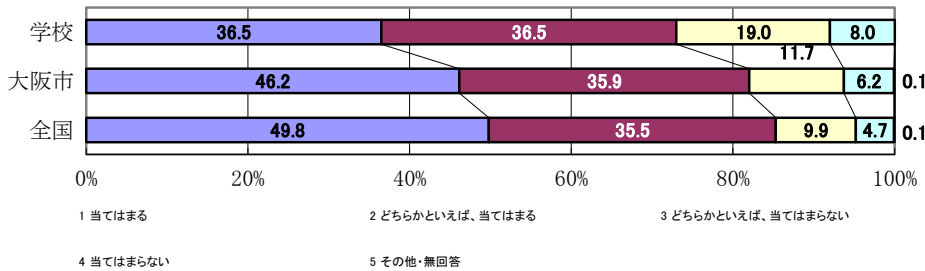
5

先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思う



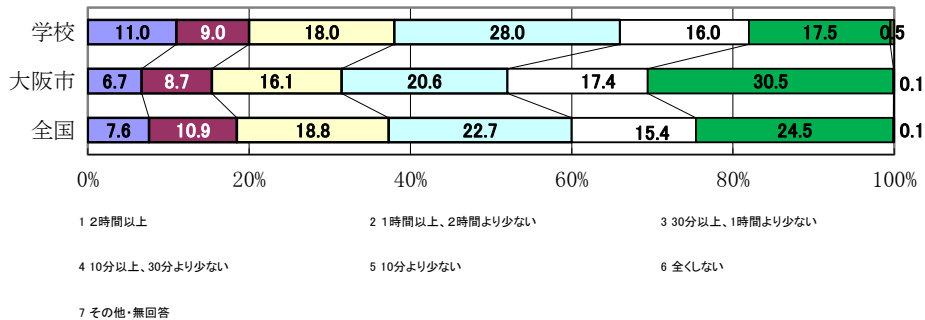
12

学校に行くのは楽しいと思う



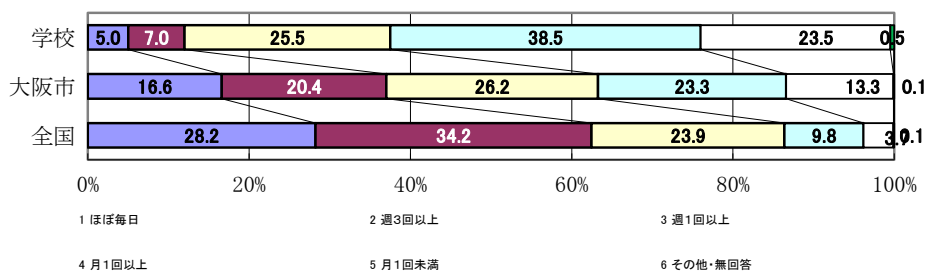
20

学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、読書を行いますか（電子書籍の読書も含みます。教科書や参考書、漫画や雑誌は除きます）



29

5年生までに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか



# 学校質問紙より

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10

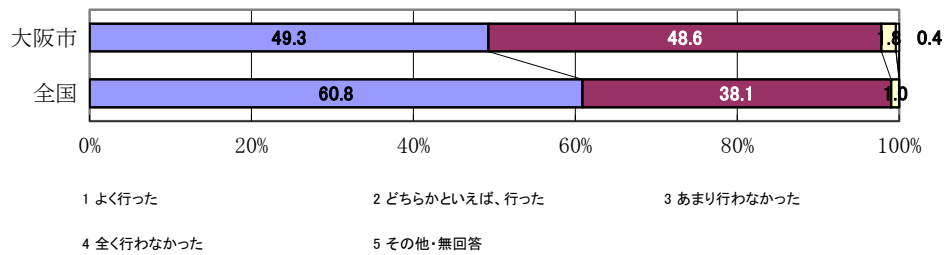
質問番号

質問事項

13

調査対象学年の児童に対して、前年度までに、学校生活の中で、児童一人一人のよい点や可能性を見つけ評価する(褒めるなど)取組を行った

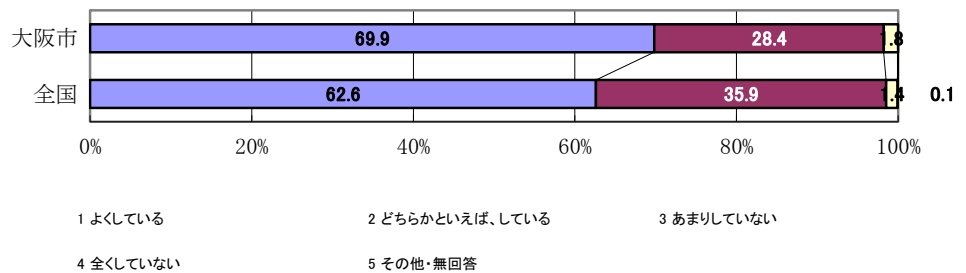
学校 「どちらかといえば、行った」を選択



22

授業研究や事例研究等、実践的な研修を行っている

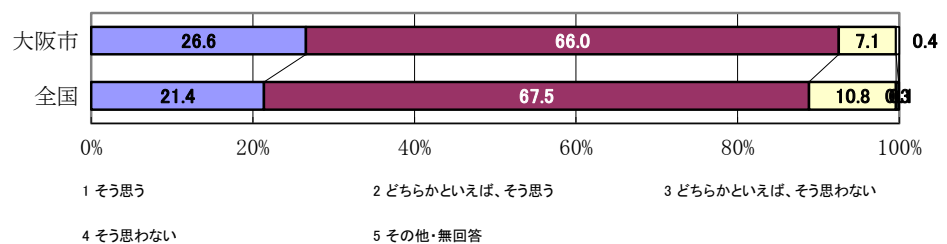
学校 「よくしている」を選択



26

調査対象学年の児童は、授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができている

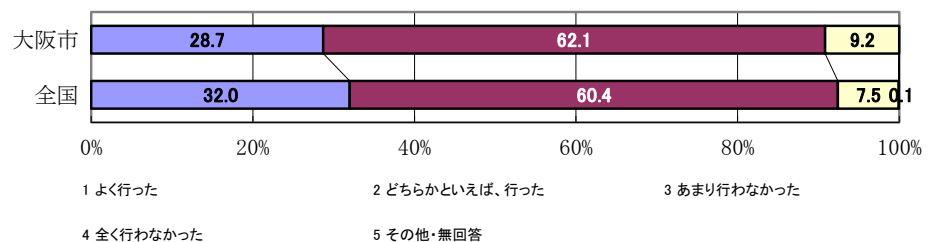
学校 「どちらかといえば、そう思う」を選択



44

調査対象学年の児童に対する国語の指導授業において、前年度までに、互いの書いた文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けることができるような指導をどの程度行いましたか。

学校 「どちらかといえば、行った」を選択



55

調査対象である第6学年の児童に対する、前年度までのICT機器の活用状況として、あなたの学校では、児童一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を、授業でどの程度活用しましたか

学校 「週3回以上」を選択

